

イノベーション部門

応募事例名

日本初！足元からまちを照らすイルミネーションマンホール蓋広告事業

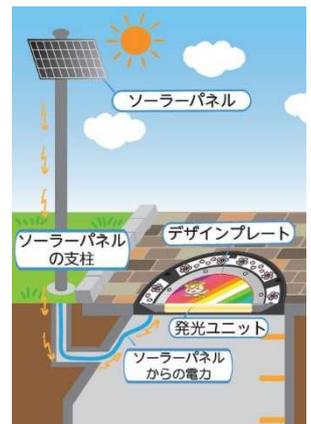
応募団体名)埼玉県所沢市上下水道局

応募事例の概要

下水道施設の今後の維持管理及び更新費用負担増、人口減少社会到来に伴う有収水量減など、下水道事業経営を取り巻く環境は年々厳しさを増す状況下において、所沢市上下水道局では、新たな自主財源の確保に向けた取組として、平成30年度より、全国初のマンホール蓋を活用した「マンホール蓋有料広告事業」を開始しました。その中で、広告の出稿者より、「夜間では目立たなくなってしまう。」との声をいただきました。同時期に、株式会社KADOKAWAの「COOL JAPAN」発信拠点である「ところざわサクラタウン」の開業が決まりました。当局はこれを好機と捉え、メーカーと共同開発し、研究を重ねて実現に至ったのが、イルミネーションマンホール蓋です。令和2年8月に株式会社KADOKAWAを契約の相手方として、最寄駅からところざわサクラタウンまでの道のり約1キロの間に28基のイルミネーションマンホール蓋広告を設置しています。イルミネーションマンホール蓋広告は、まちを足元から照らすことで、「明るく楽しいまちづくり」に貢献しています。

イラスト: 吉崎観音
©Mine Yoshizaki

↑ 夜間に発行しているイルミネーションマンホール蓋



↑ イルミネーションマンホール蓋の仕組み

PRポイント

イルミネーションマンホール蓋は、下水道の3K「暗い・汚い・臭い」を覆し、新たな観光名所にもなり、下水道のイメージアップにも寄与しています。また、夜間にまちが明るくなることで、防犯効果も期待できます。さらに当局としても、イルミネーションマンホール蓋を広告として活用することで、自主財源の確保にも努めており、マンホール蓋広告の収入と合わせ、年間約850万円(税込)の広告料収入が見込めます。

経営課 課長
草薨 秀夫

マンホール蓋広告事業は、全国初の事業で前例がなく、広告料を決める際には、広告代理店からも明確な回答が得られず、当市の判断により価格を設定しました。また、例規の整備についても、屋外広告物条例等に抵触をしないか、各機関への確認・調整も生じました。イルミネーションマンホール蓋は、特殊な構造物のため、耐久性についても試験する必要があるため、実証実験を含め1年以上の期間を費やしています。マンホール蓋広告事業は徐々に普及が進みつつあるものの、全国的には認知度が高いとは言えないと認識しております。マンホール蓋広告事業が今まで以上に周知され、全国に普及すれば、自主財源の確保や下水道のイメージアップだけではなく、民間とも連携した新たな地域づくりや魅力発信につながるツールとして成果を上げ、社会にとって有益な事業になると考えています。